

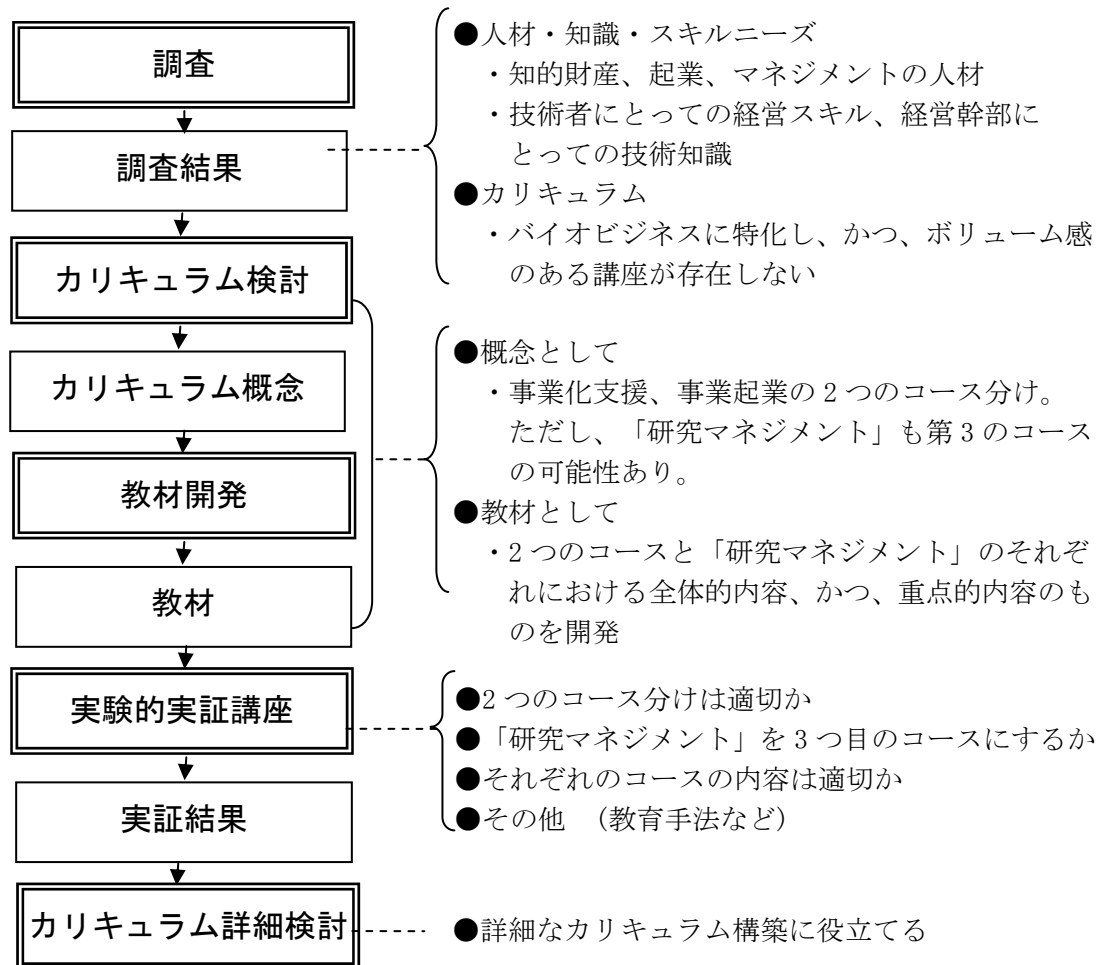
【平成17年度専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業】

事業名	ポストゲノム時代のバイオビジネスを創造する人材育成プログラムの開発と実践		
学校法人名	学校法人 東京生命科学学園		
学校名	東京バイオテクノロジー専門学校		
代表者	理事長 中村 道雄	担当者・連絡先	小室 真保 電話番号 03-3745-5000 E-mail mkomuro@bio.ac.jp

<事業の概要>

バイオテクノロジー(以下、「バイオ」)実務を数年間経験した社会人を対象に、最新の起業実践理論、経営実務、マーケティング手法、ヒューマンスキル技術、知財戦略やバイオ技術動向の知識や実践を教授することによって、新しいバイオビジネスを創造できる人材を育てる教育プログラムの開発を行った。

教育プログラムの開発に先立って、経産省その他の事業成果を精査することによって、バイオ業界における人材ニーズを幅広く調査し、同時にバイオビジネス人材を育成する教育プログラムの存在について調査した。教育プログラムは、調査の結果も踏まえながら、社会人を対象にした約300時間のカリキュラムとして構築した。実証実験が、開発したカリキュラムの全体像の妥当性を検証するものとして実施した。(下図参照)



## <成 果>

調査の成果として、まずバイオ業界における最新の人材ニーズを整理・把握したことである。その人材ニーズの中には、本事業がターゲットとしているバイオビジネス人材が含まれており、中でもバイオベンチャーを起業できる人材、バイオ企業において戦略的な事業展開を推進できる人材に対するニーズの高いことがわかった。その一方で、既存の教育プログラムを調査した結果、バイオビジネス人材を専門的に育成する長期のカリキュラムが未整備であることも確認できた。

これらの調査結果を踏まえ、バイオベンチャーの起業、バイオ企業の事業化支援のそれぞれを指向する人材の育成を狙った330時間のカリキュラムを構築した。同時に、構築したカリキュラムの概要・重要ポイントを網羅する教材の開発も行った。なお構築したカリキュラム自体は一つであり、バイオ起業、バイオ事業化支援に共通した必須科目とそれぞれの指向に重きを置いた選択科目から成るものである。

### 構築したカリキュラムの概要

科目群	概要	時間数
基礎	バイオ基礎知識、経営基礎知識、…	60h
ヒューマンスキル	基礎的素養、思考能力の養成	30h
先端知識	医療・創薬等応用分野、知的財産、…	30h
事例研究	経営戦略に関するケーススタディ等	60h
インターンシップ	企業実務実習、OJT等	90h
プランニング演習	プロジェクトを計画⇒実務評価	60h
合計		330h

最後に、開発した教材を使用し、合計3日間にわたる実証講座を実施した。その結果、バイオ起業、バイオ事業化支援に分ける指向、内容・レベル・学習方法等に関して、カリキュラムを実現するのに有益な様々な指針を得ることができた。

### 実施した実証講座の概要

コース	日取り	内容
バイオ事業 起業コース	1日目	講義に続いて演習(起業計画書の作成)
	2日目	演習結果の発表、及び、ディスカッション
バイオ事業化 支援コース	1日目	講義に続いて演習(特許の例を考案)
	2日目	演習結果の発表、及び、ディスカッション

まとめると、本事業の成果として次のようなことを挙げることができる。

- 最新の人材ニーズを整理することができた。
- バイオビジネス人材を専門的に育成する長期のカリキュラムが未整備であることを確認できた。
- バイオ起業、バイオ事業化支援を指向する人材育成のカリキュラムを構築できた。
- 構築したカリキュラムの概要を解説する教材を開発できた。
- バイオ起業、バイオ事業化支援の2つを指向するカリキュラムの実現可能性を確認できた。
- 構築したカリキュラムを精緻化して実現を目指すことが今後の課題となる。